第3回大野市文化会館あり方検討委員会 議事録

日時：令和6年4月30日（火）19時～21時15分

場所：結とびあ3階 305・306号室

1 開会

2 委員長あいさつ

- ・本日は、調査結果資料をもとにあり方の検討を進めていきたい。私事で4月に県外の大学に移ったが、変わりなく務めるのでよろしくお願ひしたい。

3 議事

協議事項

(1) 文化会館のあり方の検討について 資料1、2、3

- ・文化会館のあり方を検討するに当たって、昨年10月に建設コンサルタント業者に調査業務を委託し、各整備候補の法律の適合性調査、概算事業費、ランニングコストの結果が出たので報告する。これまでの検討内容にこの調査結果を踏まえ、文化会館のあり方について意見交換をお願ひしたい。今回、業務を受託した業者にもオンラインで参加してもらっている。
- ・資料1のとおり、①当初整備案を参考として、②現文化会館敷地に新築する案、②-1 駅東公園に新築して今の文化会館の跡地を駐車場にする案、③結とびあ西側の駐車場に大ホールを増築して結とびあとと接続する案、④図書館横の有終公園に大ホールを増築して図書館と接続する案を調査した。この調査にあたって、昨年のあり方検討委員会で決めたとおり座席数を400席程度として②から④まで統一している。延べ床面積も、当初整備案をかなりコンパクトにすることとし、②、②の1、④は2,700㎡、一部の部屋を共有する③はさらにコンパクトに2,100㎡としている。
- ・増改築での整備候補とした③結とびあとと④有終公園については、ともに整備可能との結果が出たため、調査順位3位だった学びの里「めいりん」については、法適合性調査と概算事業費調査は行っていない。
- ・それぞれの概算事業費は、他の自治体で建設された文化会館の事例を参考に、ZEB化の設備導入や物価高騰を踏まえて試算している。ZEB化を導入する目的は、国庫補助である都市構造再編集集中支援事業補助を活用するに当たって必須の条件であることによる。ランニングコストは、他の自治体の事例や今の文化会館のデータを参考に算出している。それぞれの概算事業費とランニングコストは以下のとおり。

	①当初整備案	②現文化会館	②-1 駅東公園	③結とびあ	④有終公園 東西駐車場配置	④有終公園 西のみ駐車場配置
概算事業費	38.64億円	26.79億円	27.27億円	21.91億円	27.14億円	26.93億円
ランニングコスト	44,131千円/年	33,674千円/年	33,674千円/年	23,340千円/年	28,167千円/年	28,167千円/年

- ・整備することになった場合の事業スケジュールは、最も補助率が高い都市構造再編集集中支援事業補助を活用したスケジュールとなる。第5期の補助計画が令和10年度から始まるため、最初に補助

対象となる実施設計をここに充てている。基本計画と基本設計に補助は活用できない。令和11年度に今の文化会館の解体に入り、11年度途中から13年度にかけて建設、14年度当初からの供用開始となる。②-1 駅東公園及び④有終公園に整備する場合のスケジュールは、解体工事が直接影響しないため期間が短くなると思われたが、公園での整備により造成工事が入ってくることから、供用開始は先ほどと変わらない。③結とびあで整備する場合のスケジュールは、解体と造成工事の影響もないが、期間は半年ほどしか短縮されず13年度途中からの供用開始となる。

- ・整備候補を優劣で比較した表が比較検討表である。接道状況や駐車場の確保、建設・ランニングコストなど9つの状況を比較し、普通であれば○、優位であれば◎、劣っていれば△としている。ここまでが調査業務の結果となる。
- ・以上の調査結果だけでは、本市の負担額がどれくらいあるかが分からないため、それぞれの整備候補において、財源内訳、借入額、返済額、市の負担額を事務局で計算したものが、整備候補コスト比較の表である。整備候補を左から並べ、③結とびあには跡地整備のパターンを3つ表示し、④有終公園についても駐車場を西側に整備するという案を基本にして、跡地整備のパターンを同じく3つ表示している。これは、跡地整備の方法によって、国庫補助額と起債額が変わってくるため示すものである。一番右には、文化会館をどこにも整備しない場合として、解体と跡地整備に係る内訳を示している。それぞれの市費負担額と単年度市負担見込額は以下のとおり。

	①当初整備案	②現文化会館	②-1 駅東公園	③結とびあ		
				解体のみ(更地)	駐車場(アスファルト)	広場・駐車場(カー)
市費負担額	834,633千円	504,173千円	513,167千円	584,953千円	469,412千円	429,550千円
単年度市負担見込額	77,650千円	46,268千円	47,167千円	55,074千円	43,520千円	39,534千円

	④有終公園			文化会館未整備の場合		
	解体のみ(更地)	駐車場(アスファルト)	広場・駐車場(カー)	解体のみ(更地)	駐車場(アスファルト)	広場・駐車場(カー)
市費負担額	678,797千円	563,251千円	523,387千円	208,626千円	93,079千円	53,216千円
単年度市負担見込額	63,731千円	52,176千円	48,190千円	20,863千円	9,308千円	5,322千円

- ・参考として、右下に表示してあるとおり令和4年度の文化会館のコストは29,419千円である。
- ・1点目の課題として、整備事業費に係る起債の償還が始まってから10年間において、単年度市負担見込額とランニングコストを合わせた市の負担が高額になることが見込まれる。例えば②現文化会館だと単年度の返済見込みが46,268千円にランニングコスト33,674千円が加わるため、年間79,942千円の負担になる。③結とびあについても同じ計算で62,874千円の負担となる。・本市レベルの標準財政規模が約100億円であり、経常収支比率がコロナ禍前5年間の平均で約98%だったことから、これと同等とすると突発的な建設事業や単年度事業に充てられる一般財源が約2億円程度と考えられる。その中において、今回の文化会館の事業費が新たに必要になることは、財政的に厳しくなると捉えている。
- ・2点目の課題として、国庫補助額を50%で計算しているが、これが要望通りに交付されない場合に起債額と市負担額が大幅に増える可能性がある。令和4年度までは市が行ってきた様々な事業に対して、国からは要望通り補助金が交付されていたが、コロナ禍が明けて全国的に自治体が事業を行うようになった結果、令和5年度の本市への内示額が90%を切り、令和6年度の内示額が7

0%を切っている状況である。

- ・3点目の課題として、1月に大野第三地区から要望書が提出されているところだが、②現文化会館と②-1 駅東公園以外で整備することになった場合に、「相応の避難所の新設をお願いしたい」ということに対し、避難所に関する検討が必要になる課題がある。
- ・4点目の課題として、③結とびあに整備することになった場合、結とびあ本館が令和31年度に耐用年数60年を経過するため、長寿命化や建て替えの可能性がある。もし壊すのであれば、練習室の増築などが必要になることが挙げられる。練習室を増築する想定として、概算で600㎡として23,000千円ほどの整備が必要ではないかと試算している。
- ・あり方検討委員には、これまでの検討内容とこの調査結果を踏まえて、9月までの3回の会議で文化会館のあり方の議論をお願いしたい。

(質疑応答)

委員長：今の説明の中で詳しく聞きたい点や不明な点などがあれば発言願う。

委員：事務局から説明があったとおり、1月に大野第三地区から「もし文化会館を他の場所に移転する場合には避難所に見合う施設がほしい」という要望を出した。大野第三地区は戸数が1,100戸、人口が約2,900人であり、大野市の人口の1割近くが住んでいることになる。移転すればここに避難所がなくなることになる。福井豪雨の時に赤根川、清滝川がかなりの水位になり、もう少しで水害という状況だった。最近はゲリラ豪雨もあって、短期間に多く降るため、どうしても水害の避難所が必要である。この表には、もし文化会館が移転した場合の避難所に見合う施設を建てる経費が含まれてない。本来は含むべきものだと思うので、皆様のご理解をお願いしたいと思う。

事務局：今の文化会館は、防災マップにおいて浸水地域になっており、風水害であれば2階にのみ避難できるとしている。近くの有終東小学校や職業訓練センターも2階のみ避難所に指定しているが、避難所として開けていない。その理由は、清滝川に向かって避難することを市として到底推奨できないためである。これまでの全国の災害を見ていると、避難所にたどり着くまでに災害に遭われている場合がある。文化会館は、その2つの施設と比べるとまだ川の西側にあって離れていることから避難所として開設している状況である。これも改めて大野市全体で避難所の見直しを検討していく予定である。文化会館についても小規模の水害時には開設しているが、本来であれば浸水区域になっているので水害の避難所としては適さない。水害の場合、全部の避難所を開けているわけではなく、比較的安全なところを開けて、そこに避難してもらうようにしている。今回、もし今の文化会館を建て替えるとしても、浸水区域に入っているということで、水害になった場合は近隣の施設に避難していただくことを考えている。地震については、今の施設の耐震性がないため、地震時の避難所にしていないが、これも同じく周辺地域の施設に避難してもらうこととしている。

委員：市の避難所指定では、地震の時は有終東小学校であり、水害の時は文化会館とされている。なので我々第三地区では避難所はここであるという張り紙を全家庭に配り、見えるところに貼っておく取り組みを行ってきた。水害で有終東小学校に避難すると途中で流されてしまう恐れもあり文化会館が避難所になっているので、そこは整理してもらいたい。地震に

については、市の防災講習会の中で大野市には断層が1本あるだけと聞いたので、それほど思っていない。水害について絶対に起きないとは言えないため、文化会館が他の場所に移った場合は非常に大変なことになる。よって、代替施設としてどれくらい掛かるかということもやはりこの資料に示してほしいという思いである。

事務局：水害時において、例えば一部地域に偏って洪水が起きるとその状況に応じて避難所を開設するので、そこを利用してもらうということになる。

委員長：結局、大野市全体で避難所のあり方を見直している最中ということである。この委員会ではそこまで検討できないが、お金のことは最もだと思われる。他に資料についての質問、もしくは分からない部分、詳しく説明がほしいところはないか。オンラインで建設技術研究所の川合氏もいるので、調査結果の数字についても聞いてもらえばよい。

副委員長：以前の在り方検討委員会の時も参加したが、今回、これほど経費が掛かって、そのうち国費がどれだけで、どれだけ返済しなければならないということが非常に詳しく書いてあるのでありがたいと思う。分からないのは、起債額のQ欄で大野市の借金のところでI-Nの95%を掛けるとのことだが、これだと国庫補助が1,150,000千円になるが、表記は1,250,000千円となっている。また、T欄の65,469千円も数字が合わない。両方の※の表記の意味も分からないので説明願う。

事務局：②文化会館において、Q欄が1,253,000千円になっているのは、まずこのI-Nの95%を計算した上で、R欄の解体費・跡地整備費対象のL-Oについても有利な過疎債が使えるため、L-Oに95%を掛けた額もQ欄に含むという意味である。その結果が1,253,000千円になっている。

委員長：R欄の※が含まれてこの金額になっているという解釈でいいのか。

事務局：そうである。本当であればR欄は、解体費・跡地整備費対象の公共事業等債での起債になりL-Oに90%を掛けた額になるのだが、同場所に建て替えの場合には有利な過疎債で起債できるため、L-Oの額もQ欄に含めて95%を掛けている計算になる。

委員長：資料としてはどう読み解けばいいのかが分からないかもしれない。

副委員長：T欄の過疎債で起債できない施設整備費分I-N-Qのところも分からない。

事務局：施設整備費の合計I欄から、国庫補助額を引いて借金を引いた額が65,469千円であるとしている。解体費・跡地整備費にも過疎債を使用することから計算式を短縮しているため分かりにくいかもしれない。これもU欄の※のとおり、同場所に建て替えの場合に有利な過疎債が使用可能ということで、本当はU欄に入るべき計算式もT欄に入っているというものである。

委員：単純に例のとおり計算すると合わない。マイナスになってしまう。

事務局：同場所で建て替えの場合や一体利用の場合などで変わってくるため、計算が複雑になっている。

委員：今の説明では分かりにくく、このままでは疑問ばかり残るので、次回までにもう少し分かりやすくしてもらいたい。

事務局：それぞれいくらと金額を示した資料に修正する。

委員：元々この文化会館の建て替えの話は、耐震性がないというところから話が始まっている。避難所の話が出ることは十分分かる。以前の在り方検討委員会でも建て替えると決めた時に

防災スケジュールの話が出ていた。だから、所管は違うと思うが、この検討を進めるに当たって防災スケジュールのことも含めていかないと話が前に進まないと思う。この他に2億円掛かるんですと後で言われても、私達は責任が取れなくなってしまう。今の事務局の話では、防災スケジュールは検討しますと言うが何年後になるのかという話になる。この文化会館を整備するまでにやっていかなければならないと思うので是非お願いしたい。ただ地震も想定はできる。美濃地震の時にできた塚原断層はこっちにも向いてるので、地震もゼロではない。そもそも地震があるからということで文化会館の建て替えの話が出た。先日も震度4があったので、南海トラフ地震が発生したらどうなるかということも想定しなければならない。これはこの会議でする話ではないが、防災スケジュールを教えていただけると前に進むのではないかと思う。この資料の図面では、ステージの片方からしか捌けられないようになっているが、これはどういう考えなのか。図面上右側の下手にしか出入口がない。上手に出入口がない表示だが、捌け口もそれに含まれているのか。舞台や練習室大の寸法も明示してもらいたい。

受託業者：今回、検討にあたってまずボリューム感としてこれを作っているの、指摘されたように舞台の両袖に必ず捌け口が必要ということであれば、その部分は通路の幅等で調整して確保することは可能である。

委員：練習場大は、何㎡ぐらいを思っているのか。大体どの案も一緒だが。

事務局：練習室の大が110㎡、練習室の小が60㎡である。舞台は260㎡となっている。

委員：この大きさは、検討段階であり今はたたき台ということでもいいのか。

事務局：そうである。

委員：こうなると、先ほど話があった2階を作るとどのくらいになるのかという避難所の話も含まれてくるかと思う。床を全体で1.5m上げれば使えるといったことも検討していかなければならないと思う。アプローチは悪くなるが、床を上げるだけだったらそんなに金は掛からないと思っている。

事務局：今、この計画の配置案だと2階のホワイエ部分の92㎡しか避難できる場所がないことになる。2階の他のスペースには設備が入っている。もし整備することになった場合には、基本設計や実施設計の中で面積を変えていくことになるだろうが、大きな変更はできないと思う。

委員長：今の話は、②現敷地と②-1 駅東公園のところの避難に関係するということでよいか。他の場所では1階に避難ができるのか。

事務局：そうである。

委員長：だから、整備の場合によって、おそらく基本設計でプランを検討してもらう形になると思われる。先ほどのとおりボリュームを出したというのが率直なところで、配置についてはまだこれからということである。

委員：防災スケジュールはどうなるのか。

事務局：まず、令和8年6月に現施設を閉館することを目途にしているの、文化会館を建てるまでの間、この周辺住民の避難は周辺の避難所をすることを予定している。もし仮に現文化会館を建て替える場合には、地震であればここも避難所として候補に挙がっている。ただ、どこに建てるか建てないかということが決まっていなため、現場所に建たなかった場合

のことについてはまだ周知していない。最近、本当に水害が多いということで、令和4年度に国から指定避難所の開設について通知が来ており、こういった浸水想定区域における施設については、極力避難所の指定を避けるようにと示されている。今、現文化会館の場所は浸水想定区域に入っているのも、もし同じ場所に建てたとしても、その施設を避難所として指定しにくい。大きな水害の場合に1階部分は危険なので、水害については他の地区と同様にその時々水害の規模によって開設する避難所に避難してもらうことになる。ただし、地震の場合は避難所にするのは可能である。

委員：新しい避難所はそこにはできないということを考えていけばいいのか。

事務局：水害での避難所指定はできないということである。

副委員長：整備候補コスト比較資料において、例えば②現文化会館で建てるとすると、一番下の市負担額が504,173千円となっていて、その下に単年度市負担見込額が46,268千円になっているが、10で割るとこの数字にならない理由は。A欄の数字は足さなくていいのか。

事務局：基本設計費A欄は、国庫補助も起債も対象とならない費用であり、これは工事が始まる前に払ってしまうものとなる。AB欄の額は、起債の返還となる10年間の単年度負担である。

委員：結とびあの改築費用が28,000千円だけになっているが、防音工事や間取りを考えてもこのくらいの金額でできると思えばいいのか。

受託業者：現段階では建物の㎡単価で全て統一しており、事例をいろいろ調べた中で値を取っているので、性能的なものとしてはどこの敷地であっても基本的には同じ仕様のベースと考えてもらって問題ない。

委員長：今日は第3回検討委員会であり、続いて第4回、第5回と続くが、次の第4回検討委員会である程度方向性を出したいと思っているので、これからの整備の可否を含めて、文化会館のあり方を検討していくことになる。資料3に文化会館未整備の場合という欄もあるが、こういった金額も含めてどう考えるか、今思っている率直な意見をいただきたい。特に見なければならぬのはランニングコストと単年度見込額であり、例えばこの②現文化会館であれば、46,268千円と33,674千円を足したものが毎年の負担であり、一番安いのは、③結とびあのパターン3で39,534千円と23,340千円を足したものになる。未整備の場合、毎年5,000千円ほど掛かることになるので、実際にこの大野市の中でどこまでが可能なのかも含めて検討、意見をいただきたい。

副委員長：この単年度市負担見込額だが、②現文化会館で建てる場合は46,268千円、②-1 駅東公園が47,167千円、③結とびあが55,074千円となっているが、実際に市の負担額としてこのままの負担は可能なのか。非常に厳しいということかとは思いますが、そうした場合にどういったことが考えられるのかを聞きたい。他の方法はもう考えられないのか。今、結とびあの施設の整備の資料を持っているが、これを見ると総工費15億6千4百万円の経費が掛かっている。本体工事の内、国庫補助と県補助が1億7千万円となっており、基金繰入が7億4千万円、市債が6億円、一般財源が2千6百万円で、結局15億円といった具合である。これがこの文化会館の場合、例えば20億円掛かって国から10億円の補助が出る、そのうち過疎債で7割が返ってきて、市の負担が4億円か5億円とい

うことである。それを10年で返すということだが、この4千万円や5千万円も毎年返せないということになれば、やはりどこかからこれを補填していかないとできない。市に何らかの方策がないのかということである。どこに整備しても4千万円から5千万円が掛かる。これをどう考えているのか。市の財政調整基金は4月市報によると59億円だと載っていた。文化会館は今後50年も60年もずっと使う施設であり、文化活動の中心になる施設である。やはり財政調整基金から少し捻出しなければ整備が難しいという話になっているのではないかと思う。どう考えているのか。

事務局：今の段階で、明確な答えは出せない。今回の試算は、補助事業が満額でもらえた場合であり、市の負担が最も少ない試算である。今後の状況が予定と違う場合も想定され、注視していかなければならない部分もある。また、今後、市が進めていく施策の関係との調整も関わってくる。本日の段階として、まずは先ほど委員長からもあったとおり、説明させていただいた状況に対しての委員の意見をいただけたらと考えている。

委員：自分や周りにいる音楽仲間は、大野市にすてきなホールを作りたいという思い1点のみである。もともと自分たちがやっている文化活動がお金の掛かるものだということは自負しているが、今日の資料でこれだけお金のことばかり出てきてしまうと正直自分としては興味が大幅に薄れている。これだけしか金が出せず、これだけのものを作るので、舞台をどうしたらいい、客席をどうしたらいいと言われれば自分は力を発揮できるが、お金のことに限っては全く力を発揮できないので、もう外枠を早く決めてほしい。そしてその後であれば自分が力を出しますというのが本音である。

委員：初回からだ、すごく荷が重く感じている。自分は市の子ども会育成連合会から来ているが、子どもを持つ親達の意見を集約して来ているわけではないので、自分がこの案に「はい」と言って手を上げるのがすごく苦しい。市からは未整備の場合の案も出てきた。では未整備の場合に成人式はどうするのか、そういったことを含めた案を提示していただきたいし、以前、委員の中から「アンケートはもうできないのか」という発言があったときに、事務局からは「前回やっているのもうしない」という話があった。自分としては、改めてこういう状態であること、建てる場合や建てない場合はどうなるのか、別のところに文化会館を持っていったら避難所はどうなるか、という見通しも含めて市民の皆さんに提示して、できたらアンケートをしてもらえないかと思っている。

委員：文化会館のことは長期的に考えなければならぬと思う。人口の推移がこれからどうなるかということだが、中学校が陽明中学校と開成中学校の2校になって、陽明中学校が120人、開成中学校が109人で両方合わせても230人ぐらいである。また、去年生まれた子どもが110人なので半分以下である。これは、これから11年後に陽明中学校と開成中学校に入る子どもが110人ということである。どんどん人口が減る。自分の立場は保育園や子ども園ということで、園でも年3回は文化会館を使っているし、他の園でも使っている。今度の6月30日には、9つの園の合同行事でも文化会館を使う予定でいる。でもそれは現在の状況であり、これから10年後にはおそらく半分ぐらいは保育園、子ども園がなくなっていると思う。そんな状況の中で長期的な視野で考えた時に、どういう結論になるか、我々利用者から言えば、非常に乱暴な言い方になるが文化会館は「いらぬ」「おそらく使うことはない」ということになる。それからランニングコストを見ると、単

純に運営費だけで一番安いものを見ても年間で2千万円を超えている。文化会館のホールを年間で大体20回超使うということであれば、1回で100万円も使うことになる。そしてその利用者は、我々も含めてせいぜい5万円ほどの使用料を払うので、残り95万円は市のお金である。財源が乏しい中で、ごく特定の限られた人が文化ということを使っていいものだろうかと思う。人口の推移から見ても、財源的なことから言っても、ランニングコストのことから言っても、やはり今の時期どこに建てるか経費が安いとか高いとかという問題ではなくて、そもそも作るべきか否かというところから議論を始めなければいけないのではないか、そういう場にしなければならないのではないかと思っている。だからと言って、そういう場がないのかというところではない。そのことについてはまた別の意見を持っているので、またそれは改めて申し上げる。今の段階で考えていることはそういうことである。

委員：第1回目から意見や気持ちは全く変わっていない。お金があるなら、財源がどうにかなるなら自分は駅東公園に新築するという案に大賛成である。まず、以前の委員会があった時はコロナ禍でもないし、今のように円安物価高でもないし、生まれた子が110人でもない。先日、大野市が消滅都市になるという発表もあり、以前とは全然状況が違っている。以前の話し合いを持ってきて今回も建てることでスタートしたので、これは乱暴な会議だと思った。自分としては、あり方検討委員会なのに第1回目で「もう建てましょう」と会議を進められたことにとっても驚いたし、その席でも同じことを言わせてもらった。予算がどうにもならないということは、今回の資料ではっきりしたと思う。2050年問題で団塊の世代に生まれた人たちが誰1人いなくなると言われてるのは事実である。その頃に去年生まれた110人の子ども達は26歳である。110人全員が大野市にいるとは考えられない。去年生まれた子が2050年に110人いるかいないかという時に、50年60年持つ新築の建物に何十億円も掛けるのか。どこかからお金がたくさん出てくるのなら、ぜひ駅東公園に建てていただきたいが、財源の補助金も今では必ず当たるとは到底思えない。感情論ではなく、客観的な事実から見て建てるのは難しいのではないかなと思う。建てないにしても、壊すだけでもすごくお金が掛かる。庶民の自分には、何千万円というお金は本当に考えられないお金なので、建てないから安く済むと言われても庶民の自分にはこの費用でさえ安いとは思えない。ここでは討論したいのではなく議論をしたい。戦う場ではないと思っているので、より良い意見をここで出せるのが一番かと思う。ある人から、宮様が来たときにどこでお迎えするのかと言われたが、では令和9年はどうするのか。避難所も浸水想定があって建てるのを避けるよう国から通知されているのでそこは絶対無理だと思うし、宮様も素敵な会館がないのなら帰ると言うわけがないと思う。もう客観的にそんな意見を交わしたいと思っている。

委員：お金の出所もこの委員会で考えなければならないのか。本当は行政のトップと市議会が相談することだと思っている。このコスト比較を見せられた時に、他のお金が全然ないので一番安い案がいいのではないかとされているような気がしてならない。それと当初から自分は、子どもたちの夢やそういうことができるものを残してやりたいと思ってこの会議に出てきている。令和14年の完成だと自分は70歳を超えるので今やっているバンドも続けていないと思う。今、大学を出て帰ってきた子もいるが、その子たちや今の高校生の

ブラスバンドをやってる子、音楽をやっている子のためになんとかしてやりたいと思っている。人口減少のことを言っているが、行政がこのまま何もせずに消滅都市になるのを待っているのかというところにも不満がある。

委員：消滅都市になる、人口が減っていくというところで、要は守りに入るのか、攻めに出るのかというところだと思う。守りに入ったところで人口は減っていくし、むしろその方が人口の減りが早くなると考える。もう文化会館もないような、壊すだけで建てる雰囲気がないような大野市に若者が残ってくれるだろうか。それよりも、大野市は財政が厳しいけれども攻めに行くという姿勢を見せると出ていく人が少しは食い止められるのではないかなという考えもあると思う。

委員：事業スケジュールを見ると、もし整備が決定しても8年後の令和14年にしか建たないが、高齢化社会になっても一番充実したい年齢の人や福祉施設の方も楽しめるような場所がほしいというのが私の一番の願いである。会館の規模としては、本当にお金のことがあるので「建てられないのか」という寂しい気持ちだが、叶うものなら将来の子どもたちのこともあるし、今の60代から80代の方も楽しめる場所がほしいと思う。

委員：先ほどの建てる建てないという考え方も分かるが、それを言いだすと以前やった委員会は何だったのかという話になってくるので、そこまで戻るのはどうなのかと疑問に思っている。それと、以前は今の文化会館の耐震性が無いため建て替えることになったと自分の頭に残っているので、当然、文化会館自体は建て替えざるを得ないと思っていた。その中で、自分が地元だったら文化会館が無くなっていいのかという話が出てくるのは当たり前だと思うし、災害時の避難所になるのも地元としては当然だと思う。我々は、選ばれた以上は他の方の意見も聞くのは当たり前であって、地元の考えも一緒にして考えると、やはり地元にはほしいと思うところである。個人的な考えとしては、整備に一時的に金が掛かってもランニングコストが将来的に少しでも安ければいいので、この表の一番安い案にしたところであるが、地元のことを考えればやはり今の場所で建て替えがいいと思う。タイミング悪く消滅都市という報道が出たが、この委員会では行ったり来たりせず前向きな形でやっていきたい。規模は別にして文化的な殿堂は必要だと思う。財源的なことだが、今、多少は違うけれどもどれも何十億円と試算が出ている。これがどれも全く駄目なら検討するも意味がないと思う。やはり与えられた中でどの策がいいか、それと自分の考え方がどうかということをここで発言すべきだと思う。私としては、今の場所の建て替えがいいと思う。駅東公園に建てて跡地を駐車場にする案は、駐車場が広くなるというが、広いコンクリートの広場は必要ないと思っている。毎回広い駐車場が必要なわけではなく、必要な時に臨時駐車場として駅東公園を使えるので、公園には少し手を入れて整備すればいい。先ほど水害や耐震の話もあったが、地元は建物があることで安心する。以前の計画が認められず、再検討しようということでこの委員会ができたのだから、会議を重ねるごとにせっかく作ったこれらの案を前へ前へと進めていく必要がある。この委員会としての意見を出すべきだと思う。少子化になっているところに大規模なものは必要ないが、市にはこういった文化の殿堂は絶対にほしい。経費を考えてどの場所に建てるかで結論を出すべきだと思う。

委員：よく見えないのが利用料である。利用収入はの中に入っているのか。

事務局：この中には入っていない。

委員：利用料を差し引けばランニングコストが多少変わってくる。それと、ランニングコストの人件費を今現在の雇用の場合で算出していると思うが、例えばどこかへ委託するなどのやり方をすれば、もっと人件費が減るのではないかと思う。それと建てる場所について、駅東公園には、昔、鯉が泳いでいた川もある。そして昔の福井国体のときに相撲の会場になった場所もある。そこを現在、有明町の方がどう使っているかというとはほとんど使っていないのが現状であり、どちらかというとも草刈に手間が掛かっている。自分は、駅東公園のみともない昔の名残を全て取っ払って、そこに建て、そして今の文化会館の敷地に駐車場を整備すれば、駐車台数も増えるし併せて公園側の見栄えも良くなることもあって駅東公園での整備がいいという思いがある。

委員：多くの意見が飛び交ってグルグル回っている部分もあるが、自分の中でまとめた結果として、とりあえず文化会館が必要か否かに関しては、災害時対応や集会ができる場としてこれは必要だという考えである。どこまでの文化レベルに対応するかというのは今後の話であって、トータル的に文化会館が必要だと感じられた。集会場の機能として最低限の部屋や各設備、空調、水、電気などに関してはまた業者に相談させてもらえばいい。今の舞台上の形状があくまでも大まかに落とし込まれたものであって、実稼働としてはかなり不具合が出てくると思われるので、出入りやりハーサル会場との動線が確保されていないところは追って相談させてもらって、今後、案を上げてもらえばいいと思う。従来、文化は浪費する部分もあるが生み出すものもある。地域の文化伝統を引き継ぐという大事な集会場としても、またどんどん文化伝統を引き継ぐことによって他からの視線を大野に向けるという一つの拠点としても必要な部分だと思われる。

委員長：個人的には作ることが少々厳しいかと思っているが、ただ一方で今いくつかある劇場やホールに少し手を入れてそこを拠点にするような形にするのであれば、この場所でもなくてもいいのではないかと思う。それとこの会議はあり方検討委員会ということで、何人かから発言があったとおり「実際に大野市民がどう思っているか」ということを踏まえて、その意見を基にこういったあり方として検討したという答えが出せると一番いいと思う。ただ時間的に厳しいので、ある程度この委員会の案を出した上で、それを市民にアンケートとして諮ってもらうような流れでまとめる必要があるのではないかと思う。報告書を出してこうなったということではなく、アンケートに繋がるようなあり方の提案ということまで持っていく必要があるかと思っている。お金のことを考えなければ夢のある話をしたいところではあるし、せつかく委員になったのだから、その結果こういったものを作るのに関わったと言えればとてもいいのだが、如何せん厳しい状況である。最初の会議で何人かの方から次世代への負担は残したくないという発言もあったし、今、新生児の数が110人という話もあった。今後どんどん人口が減っていく中で、夢を見させるには負担が大きすぎる。何もしないということではないが、少し改修なりを含めて何か場所をきちんと作りながら文化の火を消さないことが大事だと思っている。事務局として、今の話を受け、例えばアンケートはどういったタイミングでできるといった考えはあるか。

事務局：今のスケジュールとしては、第4回委員会を7月に、第5回委員会を9月に開催して、あり方検討委員会としての報告書をそこでまとめる予定である。その後、市長に報告書を提

出し、そこから市としてどうするかを最終的に判断する形になる。アンケートとなるとおそらく何千人規模になり、何か月か掛かることになる。しかも、金額や整備内容を全て示したアンケートになるかと思うのでどれだけ期間が掛かるか今は分からない。そうすると今年度中に市として判断ができないのではないかと感じてしまい、今はどうするか答えられないという状況である。

委員長：かなり詳細に情報を出さないとアンケートはやりにくいのか。例えば大まかな情報では駄目なのか。どう出すといいのかは自分もイメージは湧いてないが。

委員：アンケートをするなら、全市民を対象にすることになるのか。

事務局：前回は1000人対象であった。

委員：ここまで来ているのにそこに戻ったらもうアウトだと思う。全市民対象にアンケートをすることになると大変な作業だと思われるし、どこまで情報提供するかということもある。先ほど委員であることが重圧だという話もあった。自分の一票で決まる決まらないということは大変なことだと思われるが、やはりその立場を踏まえて、何かしらの選択をして提案する必要があると思う。この委員会ですらまとめたものを委員会後の次の段階で協議してもらい形にしなければならない。この検討委員会の中でまたアンケートを出すとなると行ったり来たりするのではないか。情報を出すのが悪いと言うことではなく、アンケートは非常にいいと思うが、我々は選ばれた以上は自分の考えでもって、ある程度ここで決めて次の段階へ移ってもらうことも大事だと思う。

委員：議会が前回の案を拒否したのは、附帯工事に掛かる費用が高過ぎるという話であった。建設については議会も一応同意してるわけだから、今言われるように次のステップのアンケートをするのであれば分かる。遡って文化会館を建てる建てないという話をしていたのでは、我々の今までの審議が無駄になる。次のステップでどういう案がいいかという受けとめ方をしていただきたい。

委員長：委員会としては、アンケートの結果を含めて提案することは時間的に厳しい。まずは委員会としては何らかの案を出すとして、でもそのまま進むのではなく、何かアンケートにつながるようなプロセスが必要だということを、結論として出すような形がいいのではないかと考えている。まだアンケートの中身も含めてイメージが湧いていないので、そこはまだ考える必要がある。

委員：アンケートでまた堂々巡りする可能性もある。前回決まった部分で、こういう集会場が必要であるというのは、おそらく皆さんの頭の中で7～8割はもう思われているのではないかとと思う。アンケートで問いかけたところで意見はかなり違うと思うが、統計を取って多数決を進めてしまえばいいという問題でもない。市として今後の魅力を残さなければならない部分、伝統を引き継がなければいけない部分もある。AIなどの発達もあり、違う展開を見いだす若者をいかにこちらに目を向けさせるかということも必要な部分かと思う。一つの魅力のようなものを発信できる拠点として考えられてはいかかかと思う。

副委員長：話がまた振り出しに戻りつつあるような気がするが、私は今後の大野市の文化行政をどういう具合にするのかを検討するつもりでこの検討委員会に入った。あるとかないとかいう話はないのではないかとと思う。大野市の人口は、50年後には1万7000人と報道された。少なくともなる。しかし、皆さんどうなのか。市として、この文化施設をなくしていい

のか。市民の皆さんの話は私も聞いている。「文化会館なんて1回も行ったことない」とか、或いは「今このお金を使って、後々に借金を残していいのか」と言う人ももちろんいる。この資料は、補助金が満額もらえればという話だが、市の負担は5億円である。今の文化会館を建て替えるにしても結とびあに建てるにしてもそれほど変わらない。私は、駅東公園に建てていただきたいと思っている。今はまだ施設の内容まで行かず、本来の話に入っていないので歯ざしりしているところである。その5億円を10年間で5千万円ずつ払っていくのがもちろん大金であることは分かる。今現在、市の人口は2万8千人から2万9千人ぐらいいる。令和8年にもう文化会館が使えなくなると、文化活動はどこでするのか。我々の会員が5百数十名いて、皆大野市のためにとにかく頑張っている。そういう思いを摘んでいいのか。そこを大野市として考えてほしいと思う。お金がないと言われればもうどうにもならないけれども、やはり子どものために、或いは大野市を何とかして文化で盛り上げようと頑張っている市民のために考えてほしい。それを子どもが10年後に100人になりますということで決めていいのか。皆さん、年は取ってきているが頑張っている人がたくさんいる。そういう人は今から10年後、20年後、30年後でもいる。人口が1万7千人になっても、同じような南越前町や美浜町といったところも全部文化会館を持っていて活動する場がある。もちろん、小学生も保育園児も少ないながらそこで活動している。今ここで芽を摘んでしまったら無くなってしまう。それを今この場で決めようとしているのである。「人口が少なくなるのでいらない」という気持ちで決めていいのかと思う。文化活動もスポーツ活動もそうだが、生きる力をそこから得ている。生活の支えとして活動している。そういう場を摘んでいいのかということを強く訴えたい。

委員：人口が1万7千人になるのは、50年後ではなく25年後である。自分は、文化を否定するわけではない。教育委員会にいた時に最も力を入れたのは文化活動である。当然文化は大事だが、今回作ろうとしているものは400人から500人の観客を対象にした年間数十回ほどの行事を行うためにやる事業である。そうするとそのために使うコストとその効果はどれだけなのか。20回超の文化活動は、大野市の全体の文化活動から見れば、言ってしまったらなんだが100分の1とか100分の2といったぐらいである。美術やそれぞれの学校で日常行っている文化活動、もちろん文化祭での展示といったいろいろな文化がある中で、そういった一部のものにこれだけの大きな経費を掛ける価値があるのかどうかと問うているわけである。文化活動を否定しているわけでは決していないので、誤解しないでいただきたいと思う。

委員長：事務局に聞くが、今、例えばあり方検討委員会で結論を出したとして、その次のステップに進むまでにどういうプロセスになるのか。整備するのであれば基本計画、基本設計と進むことになるだろうが、そもそもこの金額では厳しいといった話を議会か市長か、どこで判断してどういったプロセスになるのかを皆さんできちんと認識してないと最後の結論が出しにくいと思われる。その辺りについての情報をもらえないか。

事務局：今年度の上半期で残り2回の検討委員会を開催し、そこで報告書を出していただくことを予定している。市がその報告を受けてから市の方針を決定したいということで、うまくいけば今年度末には決定したいと思っている。本日はいろいろな意見もあって、例えば報告書にはっきりと結論を出しにくい場合には「こうすることが望ましい」とか、「こういっ

た結果が出たけれどもこのような問題がある」という報告であってもいいのではないかと
思っている。そういった中で、例えば先ほど出たアンケートを実施するということになれば、当然市の方針決定も遅れるだろうと思っている。今回の調査の結果、400席想定でも相当な金額が掛かることになる。その中でも我々文化芸術の担当部として将来の子どもたちのために文化を推進していく必要があり、決して蔑ろにしているわけではない。一方で将来の子どもたちに大きな借金を背負わせるということもあるので、その両方をどうするかということでこの検討委員会で話し合ってもらっている。市としては最善の結論・方針を出さなければならないので、この検討委員会の報告も大切だし、いろいろな市民の意見も大事にして市としての方針を決め、それに議会から意見をいただくなり承認いただくなりして決まっていくと思っている。

委員長：次の第4回検討委員会にはある程度の方向性を出したいというところなので、委員には、今日の資料を持ち帰って、少し頭の中を整理していただきたいと思う。

4 その他

- ・次回第4検討委員会は7月頃を予定している。

5 閉会

副委員長：長時間に渡って意見をいただきありがたく思う。何千人のために何億円も掛けるのかという話があったが、そういった問題はスポーツ施設にしても博物館、美術館にしても出てくる。何億円も掛けてどれだけ人が行くのかという話は、文化施設だけではない。一時的にはもちろん多額のお金が掛かる。しかし、何十年間にも渡って享受を受けることになる。私はそういうものだと思っている。皆さんにはいろいろと考えがあると思うが、そういう意味で、ぜひあり方検討委員会にはどのようなものを建てるのかという場であると思って参加してもらいたい。そもそも論まで行くと本当に話が複雑になってしまうので、市からはある程度の見通しを示してもらわないと話が一向に前に進まないと思うので、そこを考慮していただき、次回には少し話が進めるようになればと期待している。